



## せせらぎ Message 8

9/24/2004 発行

### 1、活動報告

#### ① 上水本町ピオトープ検討会参加

「水と緑と公園課」の呼びかけに応じ、検討会に参加。当該地は、五日市街道沿いで西側と北側の二面を砂川用水に囲まれた長方形の100坪程度の土地だが、地下3mの所にJR武蔵野線が走っており、また水面と土地の高低差が60cmあること、水底の高低差があまりなく水が濁むことが多い等条件が良くありません。これまで3回の検討会が催され、当会は

- a、周辺住民の意向を尊重する。
- b、水の汲み上げは堰を囲うなど、出来るだけ自然流水にする。
- c、整備も出来るだけシンプルとする。

ことを主張。周辺住民・小平市ともおおむね意見の一致を見ました。次回は最終回となり、植栽などを詰めます。

② 郡上八幡視察 7/2~4 ⇒ 紀行文参照

③ 「青らんぎ」祭り参加 7/19 ⇒ 感想文参照

#### ④ 用水路ボランティア活動開始

9月から市内用水路の清掃を専門とする活動を開始しました。丈の長い長靴を履き、用水路に入ってごみを拾います。「公園ボランティア」の腕章をつけて作業していると、「ご苦労様」と声が掛かることもしばしば。それにしてもペットボトル・缶だけでなく傘やテレビまで。用水路のことを多くの市民に知ってもらい、もっと大事に扱ってほしいものです。次回は10/1日(金)

#### ⑤ 「ふれあいウォーク」

9/18日(土)西部地区の用水路散策を実施。「まだ知らぬ小平市の発見が出来た。」と参加者の弁。参加費無料。弁当・飲み物・敷物持参。

次回は10/16(土)10時 花小金井駅南口集合 東部地区の用水路散策

#### ⑥ 「あじさい公園」ボランティア活動

高さや形の剪定がほぼ終わり、これからは見栄えが良いように配置換えの作業に入ります。このボランティアだけの参加も受け付けています。

#### ⑦ 蛍のこと

7月中、都立小平西高の東側の新堀用水で夜8時頃、淡い緑の光がフワフワ飛ぶのが見られました。蛍の養殖をされているN氏が幼虫を放流したのですが、いつか自生することを願って、当会もカワニナ・水草の工夫等続けます。

## ⑧ エコダイラネットワークの「環境マップ部会」

用水路の復権・宣伝につながれば、と参加した「環境マップ」部会ですが、9月が市内3つの小学校の5年生の総合学習の教材として使用されることになりました。小平市の環境について子供達が関心を持ってくれ、用水路を大事にしてくれると嬉しいです。

## 「青らんぎ」祭りに参加して

須賀 美佐子

真夏の太陽の下で、7月19日に開催された「青らんぎ」祭りに参加しました。「青らんぎ」のテーマは「自然との共生」で、企業として住生活からの「共生」に取り組んでいます。当会は、このテーマに賛同し、杏仁豆腐と「昔語り」、竹炭・竹酢液の販売をしました。来場者の賑わう中で自然派を追求した製品を扱っている企業や「青らんぎ」の教室の方の参加、木材のオークション等、他のお祭りでは見られない企画も盛り沢山で、私達も大いに楽しめた一日でした。

今年来れなかった方は、次の機会（毎年海の日に実施）に是非いらして下さい。そして「こだいら 水と緑の会」のコーナーにもいらして下さい。お待ちしております。



## 当会用水路の清掃活動報告

～「川」の水と人々の温もりは心地よい！

橋村 悟

去る5月30日（日曜日）、ゴミゼロデーに併せて、当会も『川』（用水路）の清掃に乗り出しました。この日は市の環境保全課と連携した作業で、東小川橋～鷹の橋間の新堀用水路の清掃を行いました。当日午前10時過ぎ快晴の空の下、僕はその区間内の中でも最下流に当る新小川橋下流暗渠下から鷹の橋間（実際は更に下流、西武国分寺線に架かる橋梁を越え、兔橋周辺まで）が担当という事になり、早速鷹の橋から静々と『川』（新堀用水）の中に入っていました。ここで話が脱線しますが実は小学生の頃、ドブ状態だった当時の『川』、例えば回田町の大沼田・鈴木分岐水門の辺りや、まだ開渠水路だったあじさい公園南側の築堤上の小川用水路等に入った経験は有りましたが、清流『川』に還った新堀用水路の水の中に入るのはこれが初めてです。

話を戻しましょう。いざ、水に浸かってみて得た感触は「冷たくて気持ちいい！」と言ったところでしょうか。それは長靴越しでも実感出来ます。この日は暑かった事も有り余計そう感じたのかも知れません。やはり純粋な多摩川の水は良いなと感激しつつ、清掃スタート！・・・出てくる出てくるゴミが。（せっかく嬉々としていたのに少々興奮めですね。）

新堀は常時水が流れていて、近隣の皆さんが良く手入れをされているくらいメジャーな『川』だからゴミは余りないだろうと思っていましたが、考えが甘かったようです。まず、橋のすぐ下の流れの周辺

は煙草の吸殻が多く、いきなり閉口した。護岸（土場敷）には空き缶やペットボトル、家庭廃棄物等が捨てられていましたが、問題は川底です。『川』の水が澄んでいるのを幸いに目を凝らしながら拾い上げていきました。昭和40年代から50年代の空き缶、そしてここ近年のペットボトル、色々なゴミが出て来ましたが、特に多かったのは缶のクリップと何故か瀬戸物（お茶碗や湯飲み茶碗）の粉々になった破片でした。今日、缶のクリップは取れないように施されていますが、20年くらい前までは缶から取れるようになっていましたね。この日は長靴を履いていたから良かったものの、裸足で水の中に入ったら間違いなく足を切って怪我をします。風潰しをするかの如く、クリップやら瀬戸物の破片やら、更には腰を伸ばし土場敷のゴミを丁寧に拾い上げていく為、なかなか上流へとは行けません。汗も全身から吹き出し、顔や首からの汗がポタポタと川面に落ちていきます。幸いにも途中から、新堀上流方面での作業を終えた二人の仲間が駆けつけてくれて、作業のスピードと能率が上がり助かりました。ただ残念なことに、途中から藪が鬱蒼と茂り、新小川橋下暗渠終了地点までは行けませんでした。

とはいえ、『川』を大事にしなくなっていった高度経済成長時代の「負の遺産」を少なからず除去せしめる事は出来たのではないかと手前味噌的、我田引水的に思っています。

（この個所、傲慢や自惚れと感じられ不快に思われた方、お許し下さい。）

その後、7月31日には上水南町の砂川（深大寺）用水路及び回田道周辺の田無用水路の清掃を、更には先日の9月3日は新堀用水路の胎内掘周辺から小川用水路の彫刻の谷緑道の清掃を行いました。この二件の作業についてのエピソード等はまた機会が有りましたら詳しく記してみたいと思っています。



このように『川』の清掃作業中に汗だくになっている僕達を見て、「お疲れ様です」、「御苦労様です」と温かい声を掛けて下さる方も少なくありません。その、たった一言で全てが報われる気がし、疲れも飛んでいきます。更には砂川用水路清掃時にゴミの集積場の場所を教えて頂いた上に、良く冷えた麦茶までも差し入れてくださった上水南町のS商店様にはこの場を借りて御礼申し上げます。有難うございました。とても美味しかったですよ！

この様な温かい皆さんがいらっしゃるお蔭で当会の一人一人は奮い立てるのだと痛感しています。これからもコツコツとではありますが、「千里の道も一歩から」です。小平市内の「用水路」、否、『川』津々浦々に水が流れる日が来るまで、清掃活動以外にも焦らず、しかし確実にステップ・バイ・ステップで当会は頑張っていきたいと思えます。

終わりに、つい先日終わった日本の史上最多のメダルラッシュに沸いたアテネ五輪にちょっと掛けてみました。新堀用水や小川用水をはじめとする小平の『川』の清き多摩川からの流れと、そして小平に住まわれる人々の労いの気持ちと温もりある心に永遠の金メダルと称賛を・・・。

（この文を読んで下さった方で、『川』（用水路）の清掃にご協力していただける《用水ボランティア》の方、大歓迎です！是非力をお借し下さい。皆で先人が築いた小平の『川』を綺麗にしましょう。日時は毎月第一金曜日午前10時からです。連絡は当会事務局TEL&FAX042-345-6772 馬場まで。）

7月3日、2時、市役所の方の案内で市内を視察。京都のような風情のある町をなみなみとあふれそうに水が流れる用水路に沿って歩いていると、吉田川で遊ぶ子供が元気そうに手を振ってくる。どうやら市役所の方と知り合いらしく大声で話をし始めた。「まだ、水冷たいだろ?」と市役所の方が聞く。すると子供が我々の一行に気づき恥ずかしかったらしく川に潜ってしまった。

私は少し私は離れた所を歩いていたので会話の内容はよく声がきこえなかったが、役所の方と楽しそうに会話をしている光景は、東京育ちの私にとっては実に珍しく、微笑ましいものがあった。そして何気ないことだったかもしれないが、それは役所と市民とが隔離されていないことを証明していると感じた。



## 郡上八幡

おどりの町・水の町として広く親しまれている郡上八幡。400年以上前から町中に水路が張り巡らされ、住民はこの水をうまく生活のなかに取り込んだ。先人の水利用の方法から水の大切さを学ぶことができる。視察をする中でその文化、歴史、人々に触れることができた。やはり雑誌やTVで見ると実際に触れてみるのでは大きな違いがある。特に、川で遊ぶ子供や、町の人々のいきいきとした表情が印象的であった。それらがこの町の素晴らしさを映し出している。

今回の視察の収穫は大きかった。特に、市民団体「さつき会」と意見交換をできたことは貴重な体験となった。この会の歴史は古く、何十年にも渡り郡上八幡を支えてきたが、やはりネックになったのが、市の協力だ。現在は役所が積極的に動いているが昔はそれほどでもなかったらしい。郡上八幡の町作りが成功した背景には、ガバナンス（共治）があったからであるということを感じた。市内の交通規制、建物の外観・景観の統一、用水路の水の確保に関する事まで、市民と役所の協力なくしてはできなかつたろう。

四方を山で囲まれ、美しく豊かな水に恵まれたこの郡上八幡も、こういった市民の力なくしては、素晴らしい町並み、素晴らしい景観を作り出すことはできなかつた。それらをどのように行ってきたのか、それらの考え方や捉え方などを学ぶことができ、今後の当会の活動においてもとても貴重な意見を頂くことができた。

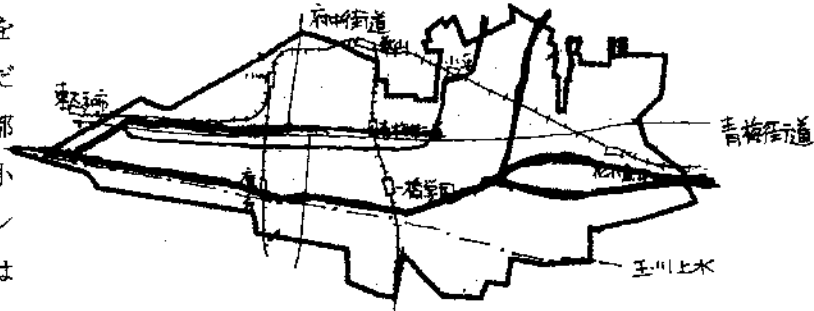
案内を頂いた市役所の方々、貴重な意見を頂いた「さつき会」の方々、我々を暖かく迎え入れてくださった町の人々に心から感謝したく思います。

小平市は東西に長い街です。都心から電車に乗って帰ってくると、丁度小平市の東の端くらいから視界に緑が増えてきます。何となくホットします。しかし長いだけあって、東部と西部では随分と自然環境の様相が異なります。

花小金井駅周辺は現在大規模開発を行っており、完成すればはなはただ近代的な街が出現するでしょう。都心に職場を持つ人達にとっては、小平市は通勤にも便利なベッドタウンと言えそうです。そういう意味では宅地開発は市内いたるところで行わ

れており、相続の発生した農地や保存樹林区が休息に姿を消し、緑の減少に拍車を掛けている。

私の住む西部地区は、市内でも緑が豊富に残る地域です。玉川上水は全長の内でも最も深く緑の帯が連なっていますし、広い雑木林もここかしこにあり、そのせいかコゲラ・シジウカラ・メジロ・ヒタキ・カワセミ等多くの鳥を目にします。青大将もモグラも日々共に暮らす生活です。用水路で言うと、西部地区では「たぬき掘り」が見られ、東部地区では唯一残っている「築樋」が見られます。



随分と様相も異なり、また宅地開発により新しい市民も増えるわけですが、何か市民全てを繋ぐ、共有出来るものはないのでしょうか？ そういうものがあれば、仮に環境に違いがあろうが、歴史の深淺があろうが、心を一つに出来るように思います。それが用水路である、と私には思えます。小平市の西の端から出てきた多摩川の綺麗な水は、市内をくまなく巡って東の端まで流れています。昔の人達は、上流に住んでいても水を下流の人が使うからと汚しませんでした。その、当時は当たり前であった「他者への思いやり」こそ、現代の私達が失いかけて、そのことによって深刻な社会問題を喚起していると言えるでしょう。

## 今後の活動予定

- 1、講演会
- |    |                       |                      |
|----|-----------------------|----------------------|
| 日時 | 平成 16 年 10 月 23 日 (土) | 13 : 30 ~ 15 : 30 pm |
| 場所 | 小平市中央公民館 大ホール         |                      |
| 講師 | 小倉 紀雄 東京農工大名誉教授       |                      |
| 演目 | 「都市における水循環」           |                      |
| 主催 | 市民奨励学級 (小平市教育委員会)     |                      |
| 共催 | 「こだいら 水と緑の会」・国土建設学院   |                      |

玉川上水にまつわる水循環のお話です。入場無料。資料多数。是非ご参加ください。

## 2、「用水路 昔語り 第三集」発行

今秋発行予定。第三集は名主・寺社特集です。面白い昔話がリアルタイムで再現。ご期待下さい。

## 3、案内板設置に向けて

今年度中に、市内用水路の一箇所にて当会製作の案内板を設置する考えです。内容・デザインを検討中。

「こだいら 水と緑の会」では定期的に次の活動をしています。貴方もご一緒しませんか？きっと貴方にできることが見つかります。

毎月第一金曜日 10時～ 用水路ボランティア

毎月順繰りに清掃を行い、全市内の用水路を回ります。

第三土曜日 10時～ 「ふれあいウォーク」

西部地区（東大和市駅集合） 東部地区（花小金井駅集合）

第四金曜日 18時～20時 定例会 中央公民館学習室3

水に関して蘊蓄のある会員多数。話だけでも面白い。

興味ある方は一度覗きに來てみて下さい。

**編集後記：**この5月から、突然振って沸いた墓地闘争に明け暮れている筆者は、夏休みもなくシビアな闘いを続けていました。「墓地って突然」来るのです。何の前触れもなく、一方的に通告されるのです。現在墓地関係の法律は墓理法と都条例があります。しかし墓理法は土葬時代に策定されたものですし、都条例は墓地推進を基本姿勢としています。背後には墓地開発に行き詰った都が、民間による墓地開発を奨励するということがあります。しかし、墓地はビッグビジネスなんですね。そう、儲かるのです。当然そこに目をつける悪徳ブローカーが生じるわけで、彼等は申請制度が単に法律的手順を踏めばいいことを盾に、住民の意思などはなから無視してきます。墓地の公益性・必要性は認めますが、おのずと開発するのに相応しい場所というのがあるでしょう。筆者の家は、小平市民だけでなく、多くの人々に愛されている玉川上水沿いにあり、今回の予定地も玉川上水の景観基本軸内にあります。こんな「無理が通れば道理引つ込む」式の強引なやり方、それも墨田区のお寺です、がまかり通るようでは一体何が正義なのでしょう。幸いにも小平市は周辺住民の4000名にも上る署名付請願を受け、指針を作りました。その流れを受け、現在東京都議会でも小平市の意向を重視するべく議会で審議される予定です。まだまだ筆者の闘いは続きそうですが、これも環境を守る闘いの一つかと頑張ります。しかし体重が2kgダウンしたまま戻りませ〜ん。

問い合わせ・申し込み 「こだいら 水と緑の会」

事務局 馬場 淑子

Tel/Fax 042-345-6772

H P <http://www009.upp.so-net.ne.jp/wayer-green/>

